

附属研究所斯道文庫は、日本および東洋の古典に関する資料の蒐集保管並びにその調査研究を行う研究機関として、慶應義塾創立 100 年に際し、麻生太賀吉氏より寄贈された財団法人斯道文庫の蔵書約 7 万冊をもとに、昭和 35 年に設立されました。現在では 6 名の専任教員と、4 名の事務職員、研究嘱託若干名のスタッフを擁し、貴重な古典籍を数多く含む 17 万 5 千冊以上の蔵書を有しています。

文庫員は、日本国内はもとより海外まで和漢の書物のある場所に直接赴き、現物に当たって調査し、それらをマイクロフィルムカメラやデジタルカメラで撮影するなどして、書誌学的方法による研究を行っています。書誌学とは、書物を対象として、その形態や内容について科学的・実証的に研究する学問で、独立した存在ではありますが、書物を利用する全ての学問の補助学としても応用できるものです。

近年のデジタル技術の発展に伴い、インターネット等を通して図書を画像によって提供することが一般化し、その画像の有する情報を正しく理解することが重要となってきましたが、そのためには書誌学の知識を有することが必要です。そこで、斯道文庫では、文学に限らず和漢の書物を利用する諸分野の研究にも役立つ、書誌学の基礎知識を身に着けるための講座を開設しています。斯道文庫には、文学研究科の大学院生を対象として、書誌学的研究能力を養成するための講座も設けられていますが、この設置講座で主として学部生を対象とするのは、書誌学が経験学としての側面を有する学問であるだけに、できるだけ早い時期に学び始めることが望ましいからです。

古い書物は、その本が生まれた時代の文化を伝えるタイムカプセルであり、それらを直接手に取ることによって、その時代の人や文化を感じ取ることができます。そのような喜びを味わい、自分の勉強に活かしてみたいと考える学生の履修を斯道文庫では希望しています。（斯道文庫設置講座 <http://www.sido.keio.ac.jp/course01/index.html>）